

会議結果報告書

1 会議の名称

令和2年度第2回光市男女共同参画推進ネットワーク会議

2 開催日時

令和3年3月19日（金）13時30分～14時30分

3 開催場所

光市役所 大会議室1・2号

4 出席人数

光市男女共同参画推進ネットワーク委員18名中12名

行政関係者4名

5 傍聴者

2名

6 公開・一部非公開の別

公開

7 会議の議事録（要旨）

（1）開会

（2）会長あいさつ

（3）議事

① 男女共同参画に関する市民アンケートの結果報告について

事務局より報告

（質疑なし）

② 第4次光市男女共同参画基本計画の素案について

事務局より説明

（質疑なし）

③ 意見交換

（委員）

防災関係だが、女性の防災士が光市はあまりいない。室積で1人受けさせたが、里の厨にも1人おられる。今2人。ここの委員さんでも、枠があるからなかなか難しいのだろうが、1人でも受けていけばいいんじゃないかなと思う。

やっぱり女性がいないと、女性に関することはいっぱいある中で、女性に先頭切ってもらわんといけないと思う。今3人か、4人ぐらいじゃないか、受けるのが。増員枠を考えてもらったらいいと思う。

(委員)

市民アンケートの結果を見て、若い人と高齢の方の意識の違いがすごく鮮明に出てたというのが印象的。やはり、若い人はいろいろな情報が入ってくるからこそ、知っている部分、分かっている部分があるけれども、それをどうやって、いろんな人に伝えていくのかなと、やっぱりそういうことが難しいのかなと思った。

なので、第4次の基本計画をまた作られるので、これを基にいろんな世代の方にいろいろな情報を発信できて、みんなが分かっていたらいいとか、分かっている社会づくりが必要だと思った。

(委員)

市民アンケートとして、たくさんの方にアンケートしていただいて、ここまで資料を作っていただいて、1人の人がたくさん丁寧にお返事を回答してくださったことがすごいなあと思うし、本当に率直に書いていただいていると思う。

高齢者の方と若い方では、やはり時代背景が全く違うので、人生の先輩として尊敬しなくちゃいけないなとも思うし、昔は生活が精一杯の時代、でも地域との密着があって、今みたいに電話相談しなくても、相談できる人がたくさん周りにいたと思う。そして今、若い世代の方は、若い世代の方なりに頑張っていると思うし、今の基本計画の重点項目の8「安心して暮らせる社会づくり」というのが、私は一番大事だなと思う。

何でも、頭ではわかっているけどなかなか行動にはできないけど、こうやって集まって丁寧に考えていくっていうのは、少しずつ前に進むのでいいと思っている。人として、お互いに思いやりを持って、温かい光市民として過ごしていければいいなと思う。

(委員)

自由記述がたくさんあり、それを見て共感できることがいっぱいあった。年齢によって、また、置かれている背景によって、それぞれの思いがとてもよく書かれているなと思ったが、ただ、アンケートで「男女共同参画ができているか」という項目が、前回と比べて、「できている」と感じている人が減ってきているというのが、どういう理由からかなと。

世代はどんどん変わってきているので、例えば60代の方が70代になったりとか、それは変わってきていると思うが、その辺の減ってきている原因が、新たに関心を持ったから「できてない」と感じていたのか、その辺の数字はどういうふうな原因で現れているのかというのが、ちょっとわからなかった。また、そういうことが解決の方の糸口になるのではないかなとも思った。

10代、20代に関しては、どんどん「できている」と感じているということは、学校教育でどんどん浸透してきているのかなというふう感じた。

全体的に活動として、社会全体に講演とかセミナーとか広報とかで広めるとともに、やはり個々に働く家庭とか社会とか職場とか、持っているもの、抱えているものが全部違うので、一概

に全部同じような形で受け止めるということは難しいと思うので、それぞれが抱えている問題をいかにいろんなサポートをもらいながら解決していくかということが大事である。

また、今回新たにLGBTという問題があるが、男女関係なく一人ひとりの人権が守られて、能力が活かされるような、平等が数で数えるのではなくて、それぞれが持っているものの能力とか人権とか尊重できる、お互いが思いやられるというような社会ができるような推進であればいいなと思う。

(委員)

このアンケートいろいろ見て、昔の方のおっしゃられている「男の人は外で仕事、女の人は家庭」という考えも少し共感できるし、今の方の「仕事をバリバリして頑張りたい」という考え方も共感できるが、保育士を私はしているので、仕事をしているお父さんとお母さんの代わりに仕事をしているが、親に勝るものはなくて、やはり幼児期は愛情をたっぷりに接して、また大きくなったらそれぞれ復帰して、それぞれの期間で男女関係なく支援の幅が大きく広がれば、個人的にいいなと思っている。

基本的に男性、女性は同じものではないので、それぞれ人として不得意分野を補えるような、また、家族の一員として子どもと一緒に助け合える社会になればいいなと思っている。

(委員)

ハローワーク下松から労働関係者という立場で参加させていただいているので、ハローワークとしてもできる限りのことは協力をしていきたいと考えている。

(委員)

里の厨に出荷される方、高齢の方の出荷される状況を見ていると、ほとんど女性がリードされている。ご夫婦で来られるが、女性が中心に出荷されているというのが8割以上ではないかと思う。先ほど、労働の観点からおっしゃっていたので、里の厨の観点から言うと、それが高齢化の中でも明らかに女性の方がイキイキとされているというのが見て取れるんじゃないかと思う。

家庭のことを申し上げる。先日、この1回目の会議に参加させていただいた後、ちょうどなのだが、家庭の中で家事の分担をしようという話になった。料理はさし向き作るから、皿洗いをしよう、分担しようということで、家族3人であるが、娘が皿洗いを週末にすると。お父さんはいつするのということに2人から問い詰められたので、しないという返事をしたが、そんなのは許されんという話になって、(笑声) 手が空いた時にしようということで、現在、週に2回ほど皿を洗っている。

それで感じたことだが、もっと早くすれば良かったなというのが1点と、労働時間が3人とも違う。短いのもいれば、私が一番長いのだが、そういう観点で見れば、平等というのは、どういところで計るのかな、その辺の疎通が取れないと、やはりそこにいろんなトラブルがあるんじゃないかなと、自分の身近な家庭の中でも感じた。

だから、もう少しお互い優しい気持ちで接する必要があるが、これを突き詰めて細かく決めていくこともいいことなのだろうが、さっき誰かおっしゃった、男性と女性はやっぱり違うんだという、そういうふうに職業やいろんな問題が絡んできたりしたときの、その辺を譲り合うようなお話と

いうのも、こういうことを進めていけば必要なんじゃないかなと思った。

(委員)

防災について、ちょっとお話ししたいと思う。

近年、本当に経験したことのない大規模な災害が頻発している。幸いにも、平成30年7月豪雨はあったが、光市においては、周防とか三井とか上島田は結構浸水があったが、しかしながら、長期的な避難所にはいかなかった。もしこれが、避難所が長く続くと、やっぱり男性だけじゃ駄目だと思う。というのは、避難所には女性の方もいっぱいいらっしゃる。女性の方が役員であれば、女性は男性には言いにくいことも、女性の方には言えると思う。

だから、避難所の運営には、最初から女性の参加を私は非常に望んでいる。それだったら、長期に避難所があっても、何とかいくんじゃないかなと考えている。

(委員)

昭和の時代を知っている者にとっては、男の考えと女の考えは随分違うなどと思うが、年代でも随分違うので、それをひっくるめて目標値上げるのがなかなか難しいのではないかなという気がする。

それと、この1年コロナの関係で随分、経済も環境も家族関係も労働関係も随分変わってきたので、第4次計画は、コロナと一切関係ないかもしれないが、緊急事態についても、ちょろっと触れる場面があったら、後々の参考になるんじゃないかなと思っている。

(委員)

男女共同参画の市民の皆さんのアンケート結果を楽しみに見させていただいたが、確かに10代、20代、30代あたりは、本当に希望というか、光が少し見えるような気がするが、年を重ねるにつれて、下がっている、実現しているという思いが。これは、どういうことなんだろうかと。

1,500人のアンケートで年代別に見たら、それぞれがもっと少ない数字になるから、優位さとは言えないんだろうか、それとも、本当に年と共に認識が変わっているという、その辺の見方、考え方等、どういうふう考えるんだろう、どういう感じなんだろう。

もし事務局の方、アンケートをしてみて、何かその辺で感じたことを、わかったようなことがあれば教えていただきたいと思う。

(事務局)

アンケートについて、年代によって大分違うが、アンケートの回答者が、やはり年配の方が熱心に答えていただいているので、回答者の数が多いということもあるのかなと思う。だから、年配の方の声が大きく影響を与えた結果には自然となっているかと思う。

年配になるからそういうふうな考えになるのか、若い方も年を重ねるとそういう考えになるのか、それとも、今の若い方が年を取られた先には時代が変わっていくのか、考え方自体が変わっていくのかというのは、はっきりこうだというのは言えないが、やはり学校教育とかも変わってきているから、希望としては、若い方の考え方がだんだんと現れてくるのではないかなと、私自身は、個人的には期待している。

(委員)

その年代というのは、合計 1,500 人は、高齢の方が多いのか。

(事務局)

アンケートは光市の人口の年代に沿って均等になるように配布しているが、年配の方ほど熱心に回答してくださるので、均等に配布はしたが、回答率は年代が高い方の方が多いということになっている。

(事務局)

多くのご意見をいただき、感謝する。今日のご意見を、また今後の庁内の会議でも報告しながら、いろいろ考えていきたいと思う。

やさしいまち、光市というものの実現に向けて、皆さんのご意見にもあったが、本当のやさしさというものを、もうちょっと深く我々も考える必要があると思う。

また、おっしゃられたように、アンケートの数値では、若い人と高齢者の方、ご意見が違うということで、前回も、これからは若い人のご意見もいろいろと汲み上げていくのも大切ではないかと、私申し上げたところであり、やはりそこら辺をちょっとポイントに、もう一つ練り込んでいければなという思いがいたした。また、これからもご意見のほどよろしくお願ひしたい。

(会長)

今日はたくさんの意見をいただき、感謝する。

一つ、私が言いたいこととしては、皆さんは、ネットワーク委員の自覚を持って接していただきたい。いつも男女共同参画をちょっと頭の隅に、いつも思っておいて、帰られても、そのことだけは忘れないで生活してほしいなと思う。このメンバーで、光市にいろいろ広めていていただきたい。と言うのは見やすいのだが、(笑声) 自覚を持ってやっていただけたらと思っている。

今日のご参加いただき、感謝する。

(4) その他

- ・今後の予定について

(事務局)

今回のネットワーク会議については、基本計画案の中間報告を予定して、7月ぐらいの開催を考えている。

(5) 市民部長あいさつ

(6) 閉会